



クルーズを支える人たち
 上海・濟州島クルーズ④

今回のイタリア客船 コスタ・ヴェクトリア号は七万五千ト、十五万ト級の超大型客船が登場する時代となり、大型客船の中でも小さい部類に属する。乗客定員二千三百九十四人で乗組員は八百人。乗客に対して乗組員が多いことが豪華客船のパロメーターといわれるが、コスタ・ヴェクトリア号は乗組員が多い方ではない。写真のようにイタリアの国旗、緑・白・赤の三色旗をあしらった

帽子やチョウネクタ イ、陽気なイタリアの雰囲気は漂うイタリアンスタイルの客船である。本格的クルーズは今回で三回目だが、今までで最も庶民的な客船だ。とはいえ、乗組員八百人とはやはり大変な数であり、私は乗組員の生活の場を見たいという強い希望があった。幸い、四十九日「ヴェクトリア号の舞台裏、乗組員の暮らし紹介ツアー」があり、参加した。



乗客に配布されるパンフレットには四階から最上階の十四階まで

の客室やダイニングルームなどの乗客向け施設の説明はあるが、そこには乗組員のスペースは全くない。それは窓のない四階から下の船倉と呼ばれるところにあった。乗組員の部屋、食堂、バー、ジムや、部屋全体が冷凍庫の食物倉庫がいくつもある。乗客の設備などに比べて狭く、何となく暗い。客室は四階より上の

部分の左右の廊下を挟んで両側にあるので、片側の部屋は窓のない部屋となり、窓のある部屋より二万円安い。私の部屋は八階の内側で海は見えない窓のない部屋だが、それでも八階のデッキに出れば空も海も見える。ところが乗組員の部屋は船倉部分にあり、窓がないだけでなく、何となく圧迫感を感じる。四人部屋を見せてもらったが、ここでプライベートもなく長期間共同生活をするのはストレスもたまり、かなり大変だという印象を受ける。そのため乗組員用のジムやバーもあるが、乗客のゆつたりとした空間に比べ狭い。

前回のアラスカクルーズで日本人コーディネーターから「乗客スペースが広く豪華になればなるほど、乗組員

片側に七十三室、廊下を挟んで右は窓があるが、左の部屋は窓がない



いるのは東南アジア系の人たちだ。労働環境の悪いところで一番重労働をしているのは東南アジア、発展途上国

スペースは狭くなる傾向がある」と言っていたのを思い出す。今も思い出すのは船倉のランドリー。乾燥室とアイロンルームだ。窓のないそれほど広くない空間に巨大な洗濯機四台と乾燥機が動いていた。また、アイロンルームはシートが一度にプレスできるようにローラーのようなものが常時動いている。そこで黙々と働いているのは東南アジア系の人たちだ。労働環境の悪いところで一番重労働をしているのは東南アジア、発展途上国